

松江地区保護司会機関紙

100号記念特集号

と も が き

No. 100



ひまわりの刈取り (7/28)



第75回「社会を明るくする運動」にあたり

松江地区保護司会

会長 深 貝 恭 悦

この度、松江地区保護司会会長に就任いたしました。先人の松江地区保護司会の歴史ある「とものがき」第100号の発刊に併せて寄稿でき嬉しく思っています。保護司の活動は、社会を支える上で欠かせない重要な役割だと認識しております。これまで佐々木前会長をはじめ、諸先輩方が築き上げてこられた実績を礎に、会員一同心を一つにして、より一層地域社会の安全・安心に貢献できるよう、微力ながら努めていきたいと思っています。

今年の6月より、刑罰法令の改正で禁固刑から拘禁刑に施行されました。拘禁刑の導入に合わせ刑事施設では、高齢者、知的障がい者、若年者、薬物依存者といった更生に向けての困難が予想される受刑者に対して、機能向上訓練や依存症治療

を含む新たな矯正処遇が展開されています。こうした生きづらさを抱えた受刑者に対しては、刑事施設だけでなく、釈放後の福祉や就労、医療への橋渡しが更生する上で何よりも重要になってきています。保護司にも負担が掛かることも予想されます。闇雲に対象者と関わり続けるのではなく、再犯防止と社会復帰の観点で必要な援助を見極めながら、地域資源につないでいくことが求められるのではないかと考えています。

社会を明るくする運動は、社会で暮らす人達が広く関わることで達成される取組です。この運動をきっかけに一人一人が自分にできる事は何かを考えて行きたいと思います。7月28日に「ひまわり配布事業」がありました。ひまわりを受け取れた人達の笑顔は明るく素敵でした。

「その一步 君の未来を 変えるかも」

(第75回社明運動標語 松江地区保護司会長賞)

第75回“社会を明るくする運動” ～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～



“社会を明るくする運動”は、すべての国民の皆様が、犯罪・非行の防止と立ち直りの支援についての理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、明るい地域社会を築くための全国的な運動です。昭和26年に始まって以来、多くの方々の御賛同・御協力を得て、今年で75回目を迎えました。

犯罪や非行の背景には、望まない孤独や社会の中での“生きづらさ”が存在していることが少なくありません。また、過去の過ちから立ち直ろうとする人々には、十分な時間と地域の中での居場所が必要です。悩める方々に寄り添い、互いに相手を受け入れることが、安全で安心な明るい社会の実現につながります。

こうした観点から、私たちが暮らす地域では、保護司や協力雇用主を始めとする「更生保護ボランティア」の皆様が、社会復帰を目指す人々を身近で支え、その再出

発を助けています。政府においても、再犯防止のための就労支援、保護司等との連携強化、町ぐるみの防犯活動の促進などに取り組んでいます。

この運動を通じて、より多くの国民の皆様に、立ち直り支援の活動を知っていただき、協力の輪が広がっていくことを期待いたします。併せて、「人は変えられる」と信じ、それを待つことの大切さについても、御理解をいただければ幸いです。「幸福の黄色い羽根」のもと、多様な背景を持つ人々が、理解し合い、支え合うことによって、犯罪や非行のない明るい地域社会が実現するよう取り組んでまいりますので、国民の皆様の御協力をお願い申し上げます。

内閣総理大臣

石破 茂



第75回「社会を明るくする運動」 にあたって

松江市推進委員会委員長

松江市長 上 定 昭 仁

平素より、松江地区保護司会の皆様には、犯罪や非行のない地域づくりにご尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、「社会を明るくする運動」松江市推進委員会は、毎年市内の中学校を対象に、本運動に基づく標語の募集を行っています。今年の市長賞受賞作品は「引き返そう 明るい未来の ある方へ」。島根大学教育学部附属義務教育学校7年、神庭 望さんの作品です。過去の過ちから立ち直り、明るい未来を目指して共に歩んでいこうという標語に

込められた神庭さんの想いが、市民の皆様に伝わるよう市役所正面玄関前に懸垂幕を掲げました。

また、本運動の強調月間がスタートするのに合わせて、7月1日から3日間、本運動のシンボルであるひまわりをイメージした黄色のライトアップを行いました。市役所本庁舎のほか、TSKさんいん中央テレビの鉄塔、NHK松江放送局の鉄塔、山陰合同銀行の本店ビルもライトアップにご協力いただき、PRの輪を広げることができました。

市内の官民が一体となって本運動を盛り上げ、本市推進委員会のテーマ「ともに支えあう やさしいまちづくり」の実現を目指してまいりますので、松江地区保護司会の皆様には、引き続きご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



「ともがき」第100号発刊によせて

松江保護観察所

所 長 三 宅 清 信

「ともがき」第100号のご発刊、誠にありがとうございます。この記念すべき節目を迎えられましたこと心よりお祝い申し上げます。

これほど長く発行されてきたことは、松江地区保護司会の皆様の活動が脈々と受け継がれ、地域に深く根差していることの証に他なりません。紙面を拝見するたびに、地域の安全と安心のためにご尽力されているお姿が目に見えます。

さて近年、社会情勢は複雑化し、更生保護を取り巻く環

境も大きく変化しています。そのような中、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くことを目的とした“社会を明るくする運動”も今年で75回という節目を迎えます。

松江保護観察所としましても、地域の皆様や保護司の皆様とともにこの運動を推し進めながら連携をより一層密にし、犯罪や非行から立ち直ろうとする人を支えることで再犯を防止し、新たな被害者も加害者も生まない地域社会の実現に向けて邁進していきたいと存じます。

末筆ながら、この記念すべき第100号が、松江地区保護司会の皆様のこれまでの歩みを振り返るとともに、今後の活動のさらなる発展に向けた新たな一歩となることを祈念し、私の祝辞とさせていただきます。

第75回「社会を明るくする運動」

入選標語

松江市長賞

引き返そう 明るい未来の ある方へ

島根大学教育学部附属
義務教育学校

かん ば
神 庭

のぞみ
望

松江保護観察所長賞

「普通じゃない？」あなたの普通は 正しいの？

松江市立第三中学校

なが さわ
長 澤

あん
杏

松江市教育委員会教育長賞

支え合おう 人と人とで つくるまち

島根大学教育学部附属
義務教育学校

いわ み
岩 見

たまき
環

松江地区保護司会長賞

その一歩 君の未来を 変えるかも

松江市立第二中学校

まえ だ
前 田

りょう せい
凌 成



応募対象者 松江市内中学校の生徒 応募数 市内中学校9校から校内選抜分81編
各賞審査 令和7年6月3日(火)に開催した標語審査会において選考

第75回 “社会を明るくする運動” 松江駅前街頭啓発活動



第75回 “社会を明るくする運動”

各地区での啓発活動

朝酌



本庄



大野



川津



玉湯



津田



持田



大庭



令和7年度 松江地区保護司会 理事会・総会・第1期定例研修・情報交換会



理事会



第1期定例研修



総会



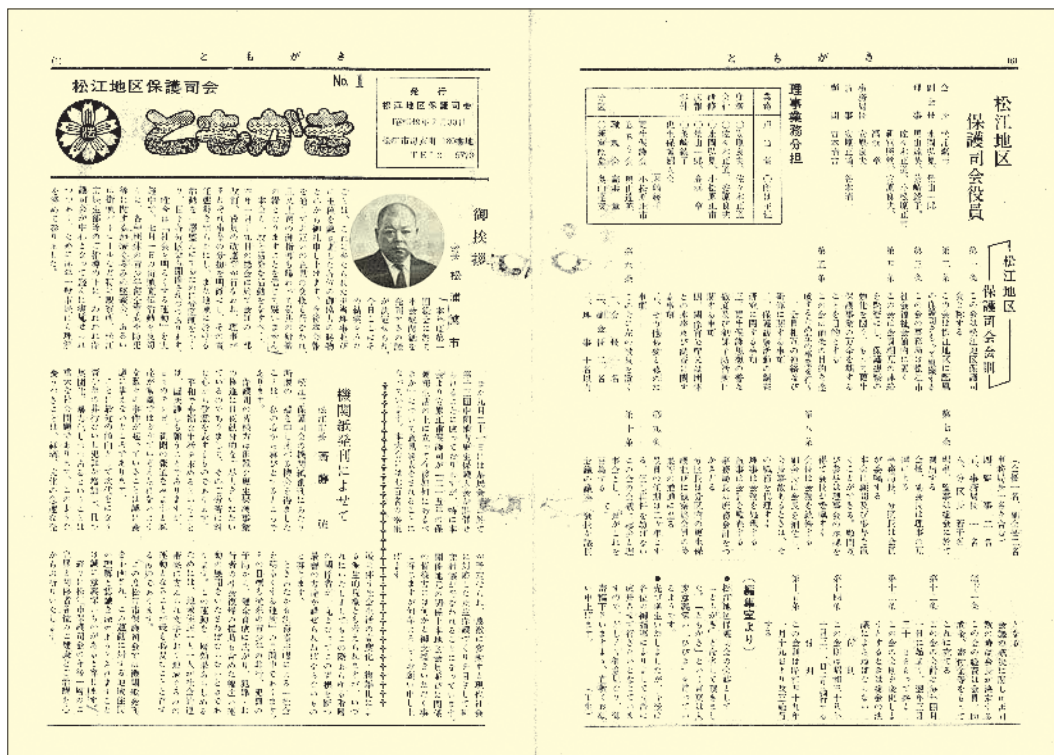
情報交換会

保護司会機関紙「とものがき100号」特別企画

松江地区保護司会 歴代保護司会会長

松江統合前				八束統合前	
初代	難波 督		S 27.3～31.7	板倉 確 豊	S 25～32
2代	大脇 英 夫		S 31.8～34.3	小豆沢 逸 郎	S 32～36
3代	佐々木 二 力		S 34.4～38.3	長瀬 学 榮	S 36～H元
4代	山下 幸 一		S 38.4～42.6	柏 木 榮	H 2～H 6
5代	藤原 伝三郎		S 42.7～42.8	山本 一 正	H 6～H 9
6代	吉本 清 治		S 42.9～44.6	岩田 幸 美	H 9～H 15
7代	和田 珍 頼		S 44.7～45.4		
8代	松浦 繁 市		S 45.5～59.1		
9代	井戸内 正		S 59.2～H 15.1		
10代	西尾 繁		H 15.2～H 16.3		

統 合 後				歴代事務局長	
初代	西尾 繁		H 16.4～17.1	高橋 良 次	H 16.4～H 16.5
2代	山口 吉 衛		H 17.1～17.9	上谷 慎 二	H 16.6～H 20.5
3代	青木 壮 文		H 17.10～24.5	新宮 晴 美	H 20.6～H 24.5
4代	前島 泰		H 24.6～27.5	高橋 良 次	H 24.7～H 26.5
5代	舟越 憲 雄		H 27.6～29.5	門脇 正 人	H 26.6～H 30.5
6代	石川 正 伸		H 29.6～R元.5	北原 則 夫	H 30.6～R 4.5
7代	井谷 耕 造		R元.6～R 5.5	野津 享 平	R 4.6～
8代	佐々木 滋 子		R 5.6～R 7.5		
9代	深貝 恭 悦		R 7.6～		



● 3代保護司会会長 青木 壮文（平成17年10月～平成24年5月）**『更生保護サポートセンター
松江』の思い出について**

『ともがき』100号記念紙号おめでとうございます。

私が保護司（昭和51年5月）を拝命してから50年になります。もちろん定年退任しています。当時の事を振り返りますと、松江保護司会事務局は母衣町にありました。同じ母衣町に法務局があり、保護観察所は法務局内にありました。保護司研修会は研修室で行われておりました。新年会は千鳥町に「一文字家」があり常宿でした。数年が経ち、禿事務局長が保護司を退任されてからは、高橋良次氏・新宮晴

美氏が事務局長を執務しておられましたが、藤井裕子事務員に加わりました。平成17年10月に松江保護司会会長に就任しました。平成20年頃からは法務省では『更生保護サポートセンター』の提案があり、数年後には松江地区保護司会に話があり、当時副会長をしておられた高橋良次様と共に事務所を何処に置くか市内各所を廻り歩きました。当時松江市健康福祉部長渡部氏に面会いたし、『保護司会の為だったら何でもいたしましょう』と話が持ち上がり、松江市総合福祉センターに話が決まりました。『更生保護サポートセンター松江』として平成23年7月21日に開所式があり、産声が聞かれ、安心を致しました。

● 5代保護司会会長 舟越 憲雄（平成27年6月～平成29年5月）**在りし日の思い出**

「ともがき」100号記念特集発刊おめでとうございます。

私が保護司を拝命したのが、平成7年12月1日付けです。それ以来22年間微力ながら、お手伝いをして参りました。平成19年より「ともがき」の編集にも7年間携わって参りました。

私事ですが、平成27年、28年の2年間松江地区保護司会の会長を承り、会長在任中には、安来市、隠岐の島町、大田市の更生保護サポートセンターが開

設され、開所式に出かけた思い出があります。それから更生保護法人しらふじ100周年記念誌の発刊があり、御祝の式典やチャリティコンサートが開かれました。また、無上の思い出としては、平成28年11月15日に「秋の褒章」で藍綬褒章の栄に浴したことです。家内同伴で皇居「豊明殿」において、天皇陛下に拝謁し、間近で陛下の元気なお姿に接し、温かいねぎらいのお言葉を賜り、この上ない喜びをいただいたものです。

おわりに、現在ご活躍中の更生保護関係者の皆様方に、心より敬意を表しご多幸を祈念致します。

● 7代保護司会会長 井谷 耕造（令和元年6月～令和5年5月）**保護司の28年間**

私が平成9年に保護司を拝命いたしましたのは、当時全国保護司連盟副会長、松江山市議会議員井戸内正様の推薦でした。その経緯は私の伯父と井戸内様が松江中学校の同級生という馴れ初めからでした。保護司就任とはほぼ同時に島根県更生保護会（現しらふじ）の評議員も委嘱されました。

当時は中学生、高校生の非行が多く常に2人から3人のケースを担当しておりました。私は雑賀地区の保護司ではありましたが、ほとんど乃木地区在住の中学、高校生や高校中退の未成年者でした。近年

は児童、生徒の減少に伴い保護観察のケースも激減しましたが、これから先も「誰一人取り残さない社会」を標榜する保護司の使命は、真に重要で何にも替えられないものです。

令和元年松江地区保護司会会長就任と同時に、島根県保護司会連合会会長にも推挙されました。その後2期4年間保護司制度70周年に参画すると共に、今年5月末を以て28年間の保護司活動を終了いたしました。

この度、記念すべき「ともがき」100号発刊をお慶びするとともに長い間公私ともにご指導ご鞭撻賜りました先生方に心よりの感謝を申し上げます。

松江地区保護司会組織図

(令和7年6月1日現在 104名)

令和7年6月1日～令和8年5月31日

常任理事 野津 享平 須山 肇
理 事 大野 美雄 小塚 昭郎 安部 吉輝
兼折 隆 土江 耕治 宮永 安道
上山 良寿 永岡 邦利 日野 隆道
目次 知浄 須山 美玲 三島 律子
安藤 裕子 板根 政廣 鳥屋尾修康
梶谷るり子 澤 真吾

会 長 深貝 恭悦

副会長 諏訪 文哉・橘 加枝子

吉長 裕教・萬代 泰久

事 務 局

事務局長 野津 享平

企画調整保護司 須山 肇・藤山扶二子

今津 祐子

監 事

稲垣 長郷

那須 信重

※会長・副会長は企画調整保護司を兼ねる

総務部会
(21名)

部 長 深貝 恭悦

副 部 長 兼折 隆 日野 隆道

研修部会
(21名)

部 長 吉長 裕教

副 部 長 三島 律子

犯罪予防
活動部会
(22名)

部 長 諏訪 文哉

副 部 長 片寄 周二 安達 政則

組織協力
部 会
(20名)

部 長 橘 加枝子

副 部 長 土江 耕治

情宣活動
部 会
(21名)

部 長 萬代 泰久

副 部 長 上山 良寿 那須 信重

1班
(7名)

班 長 目次 知浄

副班長 金築 育代

2班
(12名)

班 長 小塚 昭郎

副班長 野津 享平

3班
(19名)

班 長 安藤 裕子

副班長 佐々木滋子

4班
(9名)

班 長 小川 廣教

副班長 澤 慎吾

5班
(7名)

班 長 吉川 洋二

副班長 周藤 景子

6班
(11名)

班 長 稲垣 長郷

副班長 荒川 美典

7班
(9名)

班 長 長澤 一夫

副班長 角 亨

8班
(8名)

班 長 石原 裕二

副班長 上山 良寿

9班
(8名)

班 長 日野 隆道

副班長 安部 吉輝

10班
(11名)

班 長 吉長 裕教

副班長 萬代 泰久

11班
(7名)

班 長 土江 耕治

副班長 板根 政廣



今年度もよろしくお願いします

佐々木滋子保護司会会長退任



1期2年間保護司会会長としてご尽力頂きました。お世話になりました。



松江地区保護司会の活動の一部を紹介します



犯罪予防部会

更生保護のシンボル「ひまわり」 今年も咲きました

7月28日に恒例行事となった「ひまわりの刈り取り」を行い、市民の皆様や関係機関に配布しました。

種まき、除草、水やり等多大なご支援とご協力を頂き、今回も池田ファーム代表の池田仁志様の畑で約2000本のひまわりが見事に咲きました。池田様には深く感謝申し上げます。

当日は、松江地区保護司会犯罪予防部員、池田様、JA職員の皆様、津田交番所長、松江保護観察所長及び職員の皆様のご協力で刈り取りとラッピングを行い、市役所玄関前で松江市職員と共に配布しました。暑い中ありがとうございました。



研修部会



主に定期研修会の開催及び自主研修会の企画・立案を実施しています

情宣活動部会



機関紙「ともがき」の編集・発行を行っています

班長・副班長会議



今年度の活動等について各班長・副班長・公民館担当が集まり、実施に向けて協議をしています

新任保護司オリエンテーション



6月と12月に新任保護司に対してオリエンテーションを開催しています

令和6年度自主研修会

「中学校との連携を考える
合同研修について」

研修部会

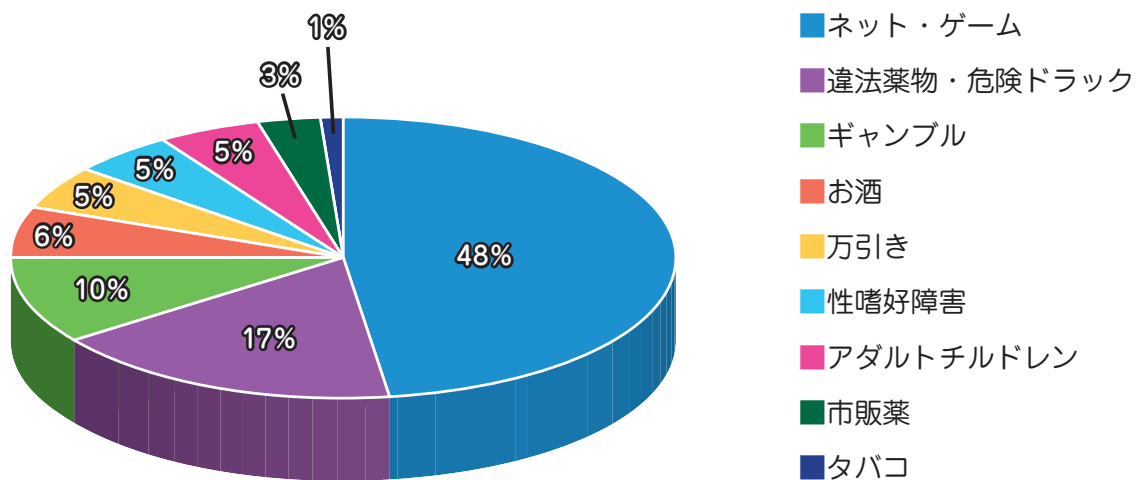
2月20日松江市総合福祉センターにおいて「中学校との連携を考える」合同研修会を開催。第1部松江保護観察所小池順司統括観察官による保護観察事件について、第2部鳥取ダルク代表千坂雅浩氏による鳥取ダルクの活動と入寮者による体験談を講演していただきました。千坂氏は鳥取・岡山ダルクの代表を兼任し、入寮者と同じ目線で関わり続け、その温かい人間性で10～70代の入寮者の回復を支援されています。依存症者の家族に対しても全国薬物家族連合会からファシリテーターの認定を受け、岡山家族会に支援活動を行い、現在は鳥取県地域依存症対策推進委員、岡山県依存症対策推進協議会委員、鳥取県再犯防止推進計画検討会委員を兼任し、依存症啓発活動や当事者・家族支援など活動を精力的に行っておられます。入寮者の皆さんの薬物・市販薬の**オーバードーズ**依存についての赤裸々な体験談は衝撃を受けました。当日は保護司をはじめ更生保護女性会、BBS会員、中学校関係、民生児童委員、教育委員会、公民館等、多くの関係団体より117名の参加がありました。参加された多くの方からアンケートに協力していただき、その結果を報告します。

※ファシリテーター：支援者的存在で、中立的な立場で進行役を務め、参加者の発言を促し、意見をまとめながら会議の目的を達成させる役割。

※オーバードーズ：一般用医薬品の過剰摂取

研修会事前アンケート

研修会で知りたいと思う依存症（嗜癖）はありますか



半数以上の方が、ネット・ゲーム/違法薬物・危険ドラッグについて、研修会で講演してほしいとのことでした。

自主研修アンケート結果

参加された大多数の方からよかったとの回答をいただきました。その一部の感想です。

- とても貴重な経験をさせていただきました。人間の生き方そのものを教わった気がします。子供に関わる仕事をしていますが、今日のお話を頭におきながら、子供たちの思い、内面・生活している環境様々なことに目を向け、自分からメッセージを発信することが出来るよう、「助けて」「苦しい」と言える子供たちを育てていきたいと思いを新たにしました。ありがとうございました。

- 衝撃的な体験談をお聞きしました。多くの子どもたちが「生きづらさ」を抱えていると思っています。その核に人との関わりがあるのだと思う。子ども一人ひとりと向き合うこと、固くなった心がすこしでもほぐれてくれるといいなあ、子どもの気持ちを理解できるといいなあと願いを新たにしました。
- 普段は聞くことが出来ない貴重な話を聞くことができた。実体験に基づく内容であったので、参加者に伝わりやすかったのではないかと感じた。依存しない生き方において大切なのは人との関係づくりであるということを学んだので今後の教育実践に生かしていきたい。本日はこのような機会を設けていただきありがとうございました。
- どの方たちもご自分の体験談を語ってくださったので、理解が深まりました。だれでも一歩踏み外しただけで、今日の方々と同じ道をたどる可能性があると感じたお話でした。それをつなぎとめるのはやはり人とのつながりなのかもしれないとも感じました。ありがとうございました。
- 「本能が理性をハイジャックされる」という話に衝撃をうけた。それでも社会復帰を目指すために前へ進むことができるように普段から人と会話をする、相手の気持ちを理解するそんな関わりを持ち続けるよう努力していきたい。
- なかなか聞くことのできない体験談をお聞きすることができ、とても勉強になりました。依存症になるみちは三者三様ですが、皆さん寂しさや孤独感、居場所を見つけられなかったことから依存するようになられていました。自己肯定感高めることが大切だと改めて感じました。たくさんのお話を聞かせていただきありがとうございました。こういったことを通じて、みなさんの再発を防止でき、他への抑止になればよいなあと思いました。ありがとうございました。
- 貴重なお話を伺い、とてもいい機会でしたが情報量が多くて圧倒されました。傍目にどんなに恵まれていて幸せそうに見えても依存はあるということをととても恐ろしく感じました。話すのがつらいことを赤裸々に話してくださりありがとうございました。日々の努力を心より応援致します。
- 依存症の怖さを知り、そしてダルクの皆様の話を聞き涙が出ました。立ち直って幸せになってください。
- とても貴重なお話を聞くことができ、興味深かったです。第一部ではSNSと共存する時代における保護観察の難しさを感じることが出来ました。第二部では依存症の実体験を聞き、深く考えるきっかけをいただきました。私もこうなりたいという理想を叶えるために努力したり、友人と遊んでストレスを発散したりするけれど、依存症の人々にとってそれが薬だったり、アルコールだったというだけで、私自身もそうになっていた、そうなるかもしれないと改めて実感しました。
- 依存症を知識として勉強するのではなく、体験談を生で拝聴することでよりストレートに伝わった。話を聴いて、依存は特別な人の特別な病気ではなく日常のどんな人にもでも起こりえる、ある意味身近なものであると感じた。驚いたのはその根本は中学生までの成長期に始まっているのが現実だったということである。



その他多数のご意見、ご感想をいただきました。ありがとうございました。(編集・文 須山)

新任保護司紹介

(令和7年6月1日委嘱)



丸 本 到 (1班 東生馬町)

6月1日付で保護司に就任いたしました。犯罪防止や非行防止に取り組んで、また経験を活かし、微力ながらお役に立てればと思っています。宜しくお願いいたします。



木 村 展太郎 (8班 鹿島町)

この度、6月1日付けで保護司を拝命しました。諸先輩からご指導を頂きながら、安全安心な地域づくりに向けて、微力ではありますが皆様のお役に立てるよう努めてまいりたいと思います。何卒宜しくお願い致します。

退任保護司

(令和7年5月31日付)

多年の業績に対し、心から敬意を表します。(敬称略)

佐 藤 昭 雄 (4班)

敬 弔

(敬称略)

ご功績をしのび、謹んで哀悼の意を表します。

保護司 喜多川 和 夫

(4班 雑賀町)

令和7年4月30日逝去



(42)

大阪・関西万博に行ってみた

今津 祐子 (7班)

日本国内で5回開催された万博のうち大阪万博、沖縄海洋博、つくば科学万博、花の万博の4会場を過去に訪れた。今年開催のこの万博は生きているうちの最後の万博になると思い、京都在住の長女と一緒に出かけた。

当日までの入場、入館予約は全て長女がスマホで手配してくれ私はついて行くだけだった。会場内はスマホが使えなかったら何も出来ない世界。買い物もキャッシュレスだった。55年前の大阪万博で見た未来の電話の携帯電話に驚いていたが、科学技術はそれ以上に進歩していた。

持参の手作り地図を見ながら広い会場をうろうろするが猛暑の中、滞在時間7時間では半分も回れなかつ

た。事前予約できた三菱未来館とオランダ館はゆっくり見学・体験できたが他は予約不要の外国館5館ほどしか見学できなかった。

最後に大屋根リング上に行ったが1周2kmの4分の1歩いてところで足がつりそうになり挫折した。ひたすら歩いてこの日の歩行数18,761歩、距離11.71km体力不足だ。

疲れはしたが「百聞は一見にしかず」ミャクミャクをはじめいろいろな物を見聞きし楽しい思い出になった。

予習のために購入した雑誌るぶは長女宅に置いて帰り、復習のため公式ガイドブックを購入してみた。

次回は8班 上野泰裕先生です。

あ と が き

毎日暑い日が続いております。今年は特に梅雨が記録的に短かったせいもあり、6月から30度を超える日が続きました。異常気象が通常の気象になりそうで怖いんですね。小誌がお手元に届くころには、「涼しくなりましたね。」と言えるよう願っております。

さて、「とものがき」は昭和49年7月に創刊され、今回で記念すべき100号を発刊することとなりました。この間の先輩各位のご努力に深く感謝申し上げます。創刊号を読ませていただくと、更生保護活動に対する熱い思いが威厳のある言葉で綴られており感銘いたしました。今回の100号記念特集として、歴代の松江地区保護司会長から寄稿いただき、厚くお礼申し上げます。

す。通常の内容としては、松江市長様、松江保護観察所長様のご挨拶、そのほか社会を明るくする運動の各地域での取り組み状況や標語の入選作の発表や、令和6年度の自主研修会のアンケート結果、松江地区保護司の新しい組織体制や各部の活動の紹介等を掲載しております。

私は本年6月から、役員改選で情宣活動部長を拝命いたしました。不慣れなものです。部員の皆さんや事務局の助けをいただきながら、重責を果たしてまいりたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

(情宣活動部部长 萬代 泰久)

当会は、松江市社会福祉協議会から配分を受けた篤志寄付金(香典返し等寄付金)を財源の一部として運営を行っています。